

三重県内企業の2022年度上期の景況感
は、非製造業がけん引する形で緩やかな上昇を示した。一方、製造業は供給制約や原材料価格高騰の影響により低下した。

当社が、7月中旬から下旬に三重県内企業を対象に行った景況調査(回答数461社)では、「業況判断BSI」(景況が前年同期と比べて「上昇」とみる企業割合から「下降」とみる割合を引いて指数化した値)が、22年度上期実績見込みでマイナス3.3となり、21年度下期のマイナス7.5から緩やかに上昇した。

上昇をけん引しているのは非製造業で、業況判断BSIはプラス2.7と9期ぶりのプラスとなった。新型コロナウイルス対策の行動制限がなくウィズコロナの社会経済活動が進む中で、外出関連を含む消費需要が回復。観光・宿泊業の業況判断BSIはプラス64.3と、調査業種で最大のプラスとなった。

宿泊施設やレジャー施設からは、コロナ禍前と比較しても客数や売上高が7〜8割の水準まで回復しているとの声も聞かれた。また、サ

ービス業も、飲食サービスや宿泊施設向けリネンサプライ、クレジットカードなどで向上き、2桁プラスとなった。小売業では、百貨店やガソリンスタンドなどで向上き、マイナスながらも改善傾向となった。

一方、製造業はマイナス12.9となり、半年前の1月時点の今期見通し(プラス13.1)を大きく下回る結果となった。とりわけ、自動車関連を中心とする輸送用機器は、マイナス42.9と大きく悪化した。

昨年来続く、部品・原材料などの供給制約や原材料高が、ウクライナ情勢や中国でのロックダウン(都市封鎖)により一段と加速した影響が大きい。製造業では、仕入れ難から生産調整せざるを得ないとする企業が、1年前の2割から4割に増えた。

22年度下期の見通しは、業況判断BSIが全体でマイナス5.2となり、製造業(マイナス12.4)、非製造業(プラス1.6)ともにほぼ横ばいの見通しとなった。

企業における最大の懸念事項は、仕入れ価格高騰の影響である。仕入れ価格が上昇傾向にある企業は9割弱に上り、

経営上の問題を問う設問では「原材料高」が1位となった。

販売価格への転嫁は、進んではいる。仕入れ価格上昇分の70%以上を販売価格に転嫁できている企業は、1月時点の約4割から約5割に上昇した。

ある旅館では、宿泊単価を上げたが客は減らず売上増となっているなど、消費者の物価上昇に対する許容度は一部では高まっているとみられる。

ただ、1年前と比べた仕入れ価格の平均上昇率が25%だったのに対し、販売価格の平均上昇率は17%にとどまり、十分な転嫁には至っていない。とくに製造業で転嫁の動きは鈍く、収益への影響が大きい。

そのような中、期待を
持てる動きもある。自動車関連製造では、下期、生産回復を見込む企業が多い。景気に先行する設備投資の実施企業割合は、コロナ禍前を上回り、1億円以上の大型投資の割合も上昇している。仕入れ難に対しては、仕入先の変更など調達体制再編の動きが広がり、新規開拓を狙う企業にはチャンスでもある。新たな芽を掴んで前に進んで欲しい。